

農試第 1046 号
令和 4 年 7 月 22 日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病虫害発生予察注意報第 1 号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場	病虫害防除室
TEL	0776-54-5100(代表)	0776-54-9315(直通)
FAX	0776-54-5106	0776-54-6403(直通)
E-mail	byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp	

令和 4 年農作物病虫害発生予察注意報第 1 号

7 月下旬の早生出穂圃場における斑点米カメムシ類の生息数は、平年より多い。また、未出穂の水田への侵入も多く確認されている。今後もカメムシ類が増殖することが予想され、斑点米が多発生する恐れがある。このことから、斑点米カメムシ類の徹底した防除を強く喚起するため、注意報を発表する。

病虫害名 斑点米カメムシ類

1 注意報の内容

発生時期：成虫の本田侵入最盛期は 7 月 5 半旬

被害程度：少発、局多発

発 生 量：平年、前年より多い

2 注意報発令の根拠

- (1) 7 月 19～21 日に県内 25 地点において早生品種水田内でのすくいとり調査（40 回振り）を行ったところ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等が、県下平均、15.8 頭と、平年 9.8 頭、前年 10.8 頭よりかなり多い。
- (2) 出穂前の中生等の圃場においても、トゲシラホシカメムシ、ホソハリカメムシ等が水田内に侵入している地点がみられる。
- (3) アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメなどカスミカメムシ類の第 2 世代成虫の発生最盛期は平年並みの 7 月 5 半旬頃と考えられる。
- (4) 早生品種については、平年よりかなり早い出穂期となり、中生・晩生品種についても出穂が早まる傾向にある。

- (5) 北陸地方の1か月予報(7月21日新潟地方気象台発表)では、気温が高い予報であり、斑点米カメムシ類の発生や活動に好適である。

3 防除対策

- (1) 出穂期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない。
- (2) 粉・液剤での防除は、穂揃期～乳熟期と糊熟初期の2回薬剤散布を行う。
- (3) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が違うので注意する。
- (4) カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、本田防除の際は畦畔も含めて防除する。
- (5) クモヘリカメムシの発生が多い場合は、収穫14～7日前に追加防除を行う。ただし、使用基準を遵守する。
- (6) 水田内の雑草が多い圃場では、カメムシ類が定着し、斑点米の発生が多くなるので防除を徹底する。

《粉・液剤での防除》

- (1) 穂揃期～乳熟期(出穂3～5日後頃)と糊熟初期(出穂10～14日後頃)の2回薬剤散布を行う。
- (2) 斑点米カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。

《粒剤での防除》

- (1) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する。
- (2) 散布時は水深3cm程度の湛水状態とし、3～4日湛水した後、自然落水する。

《追加防除》

農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。
薬剤の散布にあたっては、最新の農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。

◎ 防除対策の詳細は、令和4年度福井県農作物病害虫防除指針参照。

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021033/shokuryouanzen/boujoshishin.html>



トゲシラホシカメムシ



ホソハラカメムシ



クモヘリカメムシ



アサジカスミカメ



アカヒゲホソミドリ
カスミカメ